

# 令和5年度入学生対象

令和5年3月現在

別記様式2

## 副専攻プログラム説明書

開設学部(学科)名〔教育学部(第三類)〕

プログラムの名称	(和文) 日本語教育副専攻プログラム
	(英文) Teaching Japanese as a Second Language
1. 概要	<p>日本語教育副専攻プログラムでは、日本語教育の基礎を学ぶ機会を提供し、学際的視野から国際社会に貢献出来る人材を養成する。</p> <p>本プログラムでは、「日本語の教育」、「日本語学習の支援」、「言語の構造」、「言語と行動」、「表現と文化」、「文化の理解」の各領域に関する基礎的な知識を身につけることができる。</p>
2. 到達目標	<p>本プログラムは、以下の2点の達成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 日本語教育に関連した基本的な認識を形成すること。</li><li>2) 国際的視野および学際的思考の基礎を修得すること。</li></ol>
3. 登録時期	<p>プログラム登録時期は、履修開始前(事前登録)のみとする。履修開始時期は、2年次である。</p>
4. 登録要件	<p>登録要件は、特にない。</p>
5. 受入上限数	<p>受入上限数は10名である。</p>
6. 授業科目	<p>※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。</p> <p>※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。</p> <p>履修上の注意として、以下の2点がある。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 専門基礎科目は、「日本語の教育」、「日本語学習の支援」、「言語の構造」、「言語と行動」、「表現と文化」、「文化の理解」の6分野にわたって履修し、各分野で2単位以上を修得すること。</li><li>2) 専門基礎科目を、12単位を超えて修得した場合の単位数は、専門科目の単位数として認める。</li></ol>
7. 修了要件	<p>「6. 授業科目」に示す授業科目のうち、24単位以上を修得すること。</p> <p>標準的な履修過程は、以下の通りである。</p> <p>2年次では、専門基礎科目(「日本語教育課程論」「日本語教育と文法」等)の履修に加えて、専門科目(「文字・表記研究」等)を履修し、2年次終了時点で計10単位以上を修得する。3年次では、残りの専門基礎科目(「言語心理学」等)のほか、専門科目のうちの講義科目(「多文化間教育論」等)を履修し、3年次終了時点で累計20単位以上を修得する。4年次では、残りの専門基礎科目および専門科目のうちの講義科目を履修し、4年次終了時点で、累計24単位以上を修得する。</p>
8. 責任体制	<p>本プログラムの計画・実施・評価検討・対処は、教育学部の日本語教育系コースを担当するスタッフ(本プログラム教員会)が行う。責任者は、日本語教育系コース主任である。</p>

9. 既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

**【副専攻プログラム履修に関する注意事項】**

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

別表

日本語教育副専攻プログラム 履修表

科目区分	授業科目	開設単位数	履修セメスター						要修得単位数	開設学部	備考
			3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ			
専門基礎科目	日本語教育課程論	2	○						12	教育学部	
	日本語教授法研究	2	○								
	日本語教育と文法	2		○							
	Second and Foreign Language Teaching Method	2		○							
	日本語の音声と発音	2		○							
	第二言語学習の心理	2		○							
	年少者日本語教育	2		○							
	日本語の構造	2		○							主専攻プログラムでは2セメ
	日本語の文法	2	○								
	言語学の理論と方法	2		○							主専攻プログラムでは2セメ
	社会言語学	2		○							
	日本語の習得と指導	2		○							
	言語心理学	2			○						
	日本語の表現と論理	2	○								
	日本文学と文化	2		○							
	日本語の語彙と意味	2	○								
	比較日本文化学	2	○								
	日本文化研究	2		○							
異文化接触と文化学習	2	○									
専門科目	日本語文字・表記研究	2		○							
	日本語技能指導論	2			○						
	地域日本語教育	2			○						
	言語の比較と対照研究	2	○								
	語用論	2			○						
	日本語位相論	2			○						
	多文化間教育論	2			○						
	社会文化学	2			○						
	日本の近現代文学	2			○						
合計								24			

〈履修上の注意〉

- 履修セメスターの○印は標準履修セメスター
- 専門基礎科目については、「日本語の教育」、「日本語学習の支援」、「言語の構造」、「言語と行動」、「表現と文化」、「文化の理解」の6分野にわたって履修し、各分野で2単位以上を修得すること。
- 専門基礎科目を、12単位を越えて修得した場合の単位数は、専門科目の単位数として認める。